

寄附講義「会社研究」令和5年度 第11回目

令和5年6月28日(水) 13時10分

講師 特定非営利活動法人 三河龍馬会理事長 信原 玲子 氏

テーマ：「いまこそ学ぼう「坂本龍馬～龍馬の行動哲学～」

本年度第11回目の寄附講座は、昭和48年3月に卒業した信原信治氏の奥様で、同じく教育学部を卒業され、現在、特定非営利活動法人三河龍馬会理事長をされている 信原 玲子 氏による「龍馬の行動哲学」という講義となりました。



1. はじめに：

外国人や当時の著名人の龍馬評を引用して、龍馬の考え方や生き方を学び、今後の人生に生かしましょうと述べられました。

## ● 龍馬の概要

### 1) 龍馬はどんなタイプ？

気節凛冽（ハード）な「山岳型」タイプの中岡慎太郎とは対照的に、坂本龍馬は豪宕濶大（ソフト）な「海洋型」タイプ、海洋型に山岳型のプラス面を持ち合わせていたのが、後藤象二郎

### 2) 短い活躍期間

わずか5年間、特に最後の2年間の仕事量は驚異的

### 3) 龍馬の事跡

商社の走りとなった亀山社中・薩長同盟・海援隊の組織化・大政奉還・後の明治政府の参考となった新政府綱領八策等新しい国づくりに全てを燃焼させた「仕事三昧」の生涯であった

## 2. 龍馬に学ぶ「行動哲学」

1) 流れてとどまらぬ「水」や空を行く雲のように、「行雲流水」の心を信条とした。

2) 龍馬は幕府を解体し、朝廷を中心とした近代的統一国家をつくり、強大な海軍力を保持して、列強の侵略から日本を守るという「使命」「役割」を果たす為に、日頃から様々な思想や情報を収集し、考察を加えていた。

3) 龍馬は勝海舟・久坂玄瑞等一流の人物の考え方のエッセンスを即座に吸収し、自己変革に活かしていった。

4) 龍馬は一人でもやってやるという気概を持ち、「無償の愛」

にも似た“人間愛”を持っていたので、その愛に触れた人たちも、皆命がけの愛で答えてくれた。

- 5) 龍馬は「できない」を時間をかけて・やり方を変えて・周知を集めて「できる」に変換できる成功志向（S<サクセス>型人間であった。
- 6) 龍馬は率先垂範をモットーとしているが、「功」を独り占めしない。
- 7) 龍馬は「和魂洋才」・内外のバランスをとる・両極の真ん中（間）を大切にする日本人固有の特性を発揮すべしと主張した。

### 3. 龍馬から学ぶこと

- 1) 身につけたい龍馬精神→龍馬5か条（さしすせそ）
  - ① さ：先を読む、最後まで」諦めない
  - ② し：私心を持たない（「自忘他利」の精神）
  - ③ す：全てを受け入れる
  - ④ せ：誠意を尽くす
  - ⑤ そ：率先して行動する
- 2) 龍馬精神を人生に取り入れ、最後の最後まで行動し続けることこそが、龍馬に学ぶということ

### 4. 終わりに：

「日本をせんたく」する為に、最後の最後まで行動し続けた龍馬の精神を受け継ぎ、近い将来、学生の皆さんが自ら「龍馬」となっ

て、この国を動かしてくれることを心から願っているという事で終  
講となった。



以上